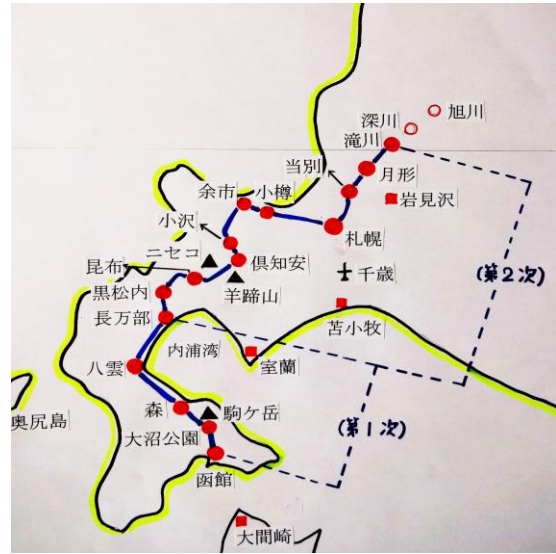


北海道トコトコ道中記（第2次） A 高鍋 学

5月に函館から旭川を目指して出発したが、長万部（おしゃまんべ）まで歩いたところでギックリ腰になり、第1次の旅は9日間であっけなく終わってしまった。しかし、この時期を逃すと次は来年になってしまうので、家で10日間休養を取ったあと、再び長万部に戻って滝川を目指すことにした。第2次北海道トコトコ道中は約260km、移動日を含めて13日間の旅となる。

前回の反省から装備は、腰の負担を減らすためにリュックの重さを5kg台から3kg台に減らし、週間予報に札幌は気温30度から32度とあったので、服装を春物から夏の薄いものに替え、前回紫外線で顔がヒリヒリと痛かったので日焼け止めクリームを用意した。



【移動日】6月1日（日） 晴 神戸空港～(SKY)～新千歳空港～(JR)～長万部

神戸空港から新千歳空港へは、スカイマークを利用。始め3日前迄特割は15,300円だったが、腰の状態を見ながら申し込みを延ばし、4日前になってネット画面を見ると、既に3日前迄特割はなくなっていた。通常予約20,900円のチケットを購入。時は金なり！

新千歳空港からは普通列車を利用して長万部に向かう。トコトコ道中は貧乏旅行を旨としているので、JRはできるだけ普通列車に乗り、宿も安いところにする。新千歳駅でJR切符を買う際、お得な「1日散歩切符2,260円」を勧められ、長万部までの33駅と乗降客を眺めながら列車の旅を楽しむことができた。今や、普通列車は貴重な存在で、JR北海道の幹線では、特急列車より普通列車の本数の方が少ない。

夕食は乗換駅の苦小牧駅で買った「噴火湾ホタテ弁当」950円。車中で美味しく頂いた。長万部の宿は先回泊まった「温泉ホテル」が満室だったので、隣の「大成館」にした。朝食付6,000円、風呂トイレ共用。後継はしっかり者の息子がいるので大丈夫、と老女将が頑張っていた。

■トコトコ道中再出発

【第1日】6月2日（月） 晴 長万部～黒松内町熱帯（ねっぶ）駅 30km

長万部からは内浦湾（噴火湾）の海岸道路を離れ、日本海側の余市・小樽を目指す。旅館を出るとき女将から貰ったジュースを持って出発。北海道は一気に夏になったようだ。道内各地で記録的な暑さの予報が出ている。ここ道南地方は28～29度くらい、空気はカラッとして風もあるので、気温ほどには暑さを感じない。

今回はリュックを軽くするために、水も必要な時に自販機で買うことにして、水筒はなるべく使わないようにしたところ、再出発初日に失敗。自販機が何キロ行ってもない。2時

間歩いて 10 時に女将に頂いた 190cc のジュースを飲んだきり、12 時に秘境の駅といわれる「蕨岱（わらびたい）駅」でサンドイッチを食べるときも水なし。地図を見て、この先予定のコースには何もないようなので、少々遠くなるけれど集落のある道にコースを変更したところ、水も飲み、天然記念物の歌才（うたさい）ブナ自生北限地帯を抜ける、静かで緑いっぱいの道道 265 号を通ることができた。



< 蕨岱駅（わらびたい） >

JR 熱郭駅に到着して、宿を予約している黒松内に戻る列車を待っていると、この春札幌の専門学校を卒業して郷里に帰り、熱郭駅近くの道の駅「くろまつない」に勤め始めた女性と二人になった。札幌の生活は最高だったそうだ。彼氏のことや職場のことや将来のことなどを明るく語る姿に、幸せになってほしいと願った。

「小間旅館」2 食付 6,500 円、トイレ風呂共用。工事関係者の長期滞在で繁盛していた。

【第 2 日】6 月 3 日（火） 晴 熱郭駅 ～ 蘭越（らんこし）～ 昆布 28km

宿の朝食はほとんど 7 時からだが、ここは 6 時から OK。朝早く工事現場に出かける人が多い。この宿は 2 週間前、ギックリ腰のために当日キャンセルした。そのことを女将に詫言ると、「よくまた来てくださいました」と、お茶のボトルをプレゼントされた。6 時 34 分発の JR で熱郭へ向う。いつもは 7 時朝食、8 時出発なので 1 時間早い。小さな熱郭駅を出ると夏の香りがした。暑くなりそうだ。



< 前はフキ 後ろにイタドリ >

国道脇はコンクリートの側溝ではなく自然の湿地帯なので、背丈より高いイタドリや大団扇ほどの大きなフキが群生して延々と続いている。カエルの鳴き声が森から通奏低音のように途切れなく続き、その中でカッコウやウグイスの音が響きわたる。午前中に目名（めな）峠を越えると、遠くにニセコ山々が見え始めた。

途中の目名、蘭越では、なだらかな傾斜を利用して、区画の大きい真四角の水田が何百枚も段々畑のように連なっていた。後日、札幌から北に行くと、石狩平野も大水田地帯があり、北海道の米生産高は新潟県に次いで僅差の 2 位、と後で知った。

夕方、羊蹄山が見え始めたころ、昆布町が経営する温泉施設「幽泉閣」に到着。2 食付 8,450 円、バストイレ付。日帰り温泉を楽しむ近隣の人達の憩いの場。

【第 3 日】6 月 4 日（水） 晴 昆布 ～ ニセコ ～ 倶知安 22km

幽泉閣を出るときに教えてもらった道道 343 号を行く。国道 5 号から一日中離れるのは初めてだ。車は少なく、ニセコ山腹を縫って、羊蹄山を眺めながらの素晴らしい道だった

ので、幽泉閣にお礼の電話をいれた。ニセコはスキーだけではなく、川下りや乗馬などのスポーツにも力をいれていて、この時期も賑わっていた。道は良かったが、2日前に左足マメを潰した跡の、痛みを抱えての旅となる。

倶知安の宿は駅前の「ナンコウホテル」朝食付 6,500 円、バストイレ付。老舗旅館からビジネスホテルに替えた典型。



<ニセコ高原>

【第4日】6月5日(木) 晴 倶知安～小沢(こざわ) 12km

今日は距離が短いので、10時ころ倶知安のホテルを出て、隙間の多いガランとした町内を一周。八雲や長万部と同じく、北海道新幹線駅ができる倶知安にも計画路線図の看板があった。オールシーズンに対応するニセコの玄関口として、倶知安は発展しそうだ。

国道ではない倶知安駅の裏側の道に行く。すると見事な芝桜の花園があった。側にある家の主人が、大駐車場まで造成して無料で公開している。その主人に峠までの裏道を教えてもらって行ったが、だんだん道が細くなって心細くなる。おまけにバッグを軽くするため、熊よけ鈴を置いてきたので、代わりに発声練習の声を張り上げて登った。



<芝桜と羊蹄山>

小沢には14時30に着いてしまった。倶知安から日本海側の余市まで42km。途中で峠もあって1日で行くのは無理なので、中間地点で宿を探したが小沢にしかなかった。

小沢の宿は「武田旅館」2食付 5,500 円、トイレ風呂共用。旅館というより常連さん相手の民宿。

【第5日】6月6日(金) 曇一時雨 小沢～稲穂トンネル～余市 31km

前日距離が短かった分、今日は長い。途中の峠には1,230mの歩道のない稲穂トンネルがある。片側1車線、路側帯は40cmくらいだ。トンネルに入る前、目立つ黄色の雨具を着て蛍光反射帯を前に付け、マメライトの準備を整えてから右側を通過して行った。トンネル内は轟音が響いてホコリが舞う。トラックが真横を通るので、つまずいて転ばないように足元に気をつけて歩いた。トンネルを抜けて静寂が訪れたときは、別世界のような感じだった。

朝、宿を7時30分に出発し、稲穂トンネルを抜けて山を下り終えたのが12時。昼食は2日前に倶知安で買っておいた5個入りバターロールパンだ。食後、余り休憩をとらず



<稲穂トンネル>

に歩き始めたためお腹が苦しくなり、地べたに座り込んで治まるのを待った。歩き旅では都合よく座れる所がなく、地べたや歩道の縁石や側溝に座ることが多い。そんなときは、よく不審者のように見られる。

17時10分、余市に到着。9時間40分、43,000歩、よく歩いた1日だった。左足の豆を潰した跡が痛まなくなったのは、ありがたかった。

余市の宿は「ホテルサンアート」素泊まり6,264円、バストイレ付。競争が少ないようだ。

【第6日】6月7日（土） 晴 余市～小樽市 JR 朝里駅 25km

余市から小樽の間は、日本海の海岸沿いに風光明媚な国道を通り、幾つもの短いトンネルがあった。そこを頻繁にダンプが行き交っていた。新しいトンネル工事をしていたのでその工事車両だ。

小樽の街に着くと、港の方角に大きくユニークなビルがあるので、地図を調べたが載っていない。港が見える所まで来て、ようやくそれが客船だと分かった。三菱重工長崎造船所で建造された「ダイヤモンドプリンセス号」116,000トン、新日本海フェリー「あかしあ」16,810トンの7倍だ。この日はクルーズの途中小樽に寄港し、12時間停泊すると聞いた。



<国道5号 余市～小樽>

宿は「小樽グリーンホテル別館」朝食付3,900円、バストイレ付き。新しい本館は素泊まり5,150円と聞いて、迷うことなく別館にした。別館は古くて狭いが清潔に保たれており、後付け冷蔵庫の扉の取手やウォッシュレットの取り付けに、涙ぐましい苦心の跡が見え、狭い部屋の中でも寝やすいように片方だけがめくれるベッドメイキングだった。また、朝食も目の前で焼いてくれる目玉焼きとウインナーなど、どれも丁寧なつくりで美味しかった。古いホテルを安い料金と最大限のサービスで補って稼働させており、敬服した。

⇒ Bにつづく